

三洋貿易、メキシコに現法設立、合成ゴムなど需要増に対応

2013/05/15

三洋貿易は、メキシコに子会社を設立、市場参入する。北米市場の拡大とともにメキシコ国内での自動車資材や合成ゴム・化学品需要の高まりに対応するのが狙い。

新会社の「サンヨウ・トレーディング・メキシコ」で、資本金は600万メキシコペソで、三洋貿易が95%、米国子会社であるSCOAが5%を出資して、今年10月をめどに設立する。本社はメキシコシティ市内に確保予定のオフィスに置いて、社長にはSCOA社長の新谷正伸三洋貿易執行役員が兼務する。

三洋貿易は、2013年9月期からの新3カ年経営計画の具体化に取り組む。新規商材開発やM&Aの積極化とともに、グローバル展開の推進を重点施策として位置付けており、今回の中米展開もその一環。3年後には600億円ビジネスへと成長、経常利益30億円の実現につなげていく。

グローバル展開として北米エリアには、設立後50年を超えて北米貿易を手掛けており、中南米展開の足場として、メキシコ進出を決めた。アジア展開では、中国3拠点(上海、天津、広州)に加えて、12年に香港現法を設立、カーボンマスターバッチ(CMB)拠点では着色ライン増強を完了した。また、11年のインド現法の設立、ベトナム拠点(ホーチミン、ハノイ)の拡充と合わせ、現状ではタイ拠点をハブとして東南アジア展開を強化中。

こうしたなかで、メキシコ拠点は日本からの製品輸出のほか、SCOAとの連携や中国・アジア拠点を活用した三国間貿易の積極推進など、商圈拡張を加速していく。

出典:化学工業日報